

作者を離れ、さらなる息吹を。

九州在住歌人の、三歌集を読み解く三人のまなざし。

三歌集を読む会



午後1時20分～2時50分

北辻一展歌集『無限遠点』

発表者 林田留美（八雁）



午後2時50分～3時30分

柘植周子歌集『寂光』

講話 さとうひろこ（短歌人）



午後3時30分～5時

永良えり子歌集『水湧くところ』

発表者 上野春子（芽）

11 / 7 (日) 13時20分開会

くまもと森都心プラザ6階D会議室

参加費 500円

Zoomでの参加を受け付けています。

主催： 三歌集を読む会

お問い合わせ先 mitadecoco@gmail.com

←ホームページ (<https://event.kinasse.com/kawakai/>) からお申し込み下さい



三歌集を読む会のご案内

秋のころよい一日、三冊の歌集を読む会を開催したいと思います。

北辻一展さんは島原市にお住まいで「塔」会員、このほど第一歌集を出版されました。

永良えり子さんは熊本市在住で「八雁」会員、もうおとどしになりますが同じく第一歌集を出版、昨年春に企画していた歌集批評会が流れましたので、このたび皆で読み合ってみたいと思います。

柘植周子さんも熊本市在住、「短歌人」会員ですすでにベテランですが、この歌集を準備中に倒れられました。入院中で、会に参加はできませんが、友人さとうひろこさんのお話を伺いつつ、その歌を味わいたいと思います。 三歌集を読む会代表 阿木津英

プログラム

午後1時20分～2時50分 北辻一展歌集『無限遠点』 発表者 林田留美（八雁）

終着駅の見えだす窓に近づいて白き息もて都市を包みぬ

北辻一展の歌には、詩的な発見のある表現が多いが、単なるレトリックではなく、自分と世界との境界を開いていてゆく鍵となっていることが多い。

焦点の合わぬまなこに呼びかければまなこはわれに焦点の合う

言葉の力で、自己と他者が一瞬通じ合う感触を捉えることに長けている。物を的確に捉えるまなざしによって、自己と対象のあいだに、いきいきとした通路をつくりだす。吉川宏志「解説」より

午後2時50分～3時30分 柘植周子歌集『寂光』 講話 さとうひろこ（短歌人）

美しいものを美しくうたうことはさしたる苦勞を要しない。柘植周子の歌は、人が見捨ててしまった世界の断片を掬い上げ、ことばの綾を尽くして、そこに「美」を構築する。長年のひたむきな習練がそのことを可能にした。平明な表現の中に、ふかいこの世界の嘆声聞こえる。ああなんと世界は美しいものに満ちているか、と。小池 光「帯文」より

世にあらぬ父の記憶は深藍のあぢさゝみ咲きて往診の道

雨のなか歩む幼に従へば菜の花いろの長靴は舟

春秋を九品寺二丁目裏小路通ひて書塾の墨香に依りぬ

午後3時30分～5時 永良えり子歌集『水湧くところ』 発表者 上野春子（芽）

生きたくことば>への鋭い反応と、知性に裏づけられた多角的な把握。清水の湧く都市・熊本で、移ろう日常のなかの起伏と変化を細やかに詠いつづける。歌を読む楽しさを感じさせる、八雁短歌会所属の著者による第一歌集。島田幸典「帯文」より

御雑煮をととのへしあとの俎板に花形人参の切れ端残る

親指を隠して柩車をやり過ぐす習ひをもはや必要とせず